

【2020年度（令和2年度）医学部業績集】

1. 医学部医学科教育

2019年12月に中国・湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、ヒト-ヒト感染によって流行が広がり、世界的な大流行（パンデミック）となった。このパンデミックは、医療現場のみならず、医学科教育にも大きな影響を与えた。他大学ではキャンパス内におけるクラスターが報告されたこともあり、教室の収容人数が大幅に抑制された。それに伴い、多くの講義がオンラインになり、学生と対面する機会が減少した。同様に、学生同士が顔を合わせる機会も減少した。学生の顔を見ることができない講義形態は、理解度や到達度を把握しにくい。自宅のインターネット環境が整っていないため、聴講が難しい学生もあり、ネット環境の整備も必要である。独りでオンライン講義を視聴すると向学心が高まらず、うつ状態になることもある。対面形式の授業の大切さを実感した。一方、オンデマンド型にすると何度でも確認できるメリットもある。今後はオンライン講義も上手に活用していきたい。

実習の面白さや難しさは対面形式でしか、学ぶことはできない。基礎実習に関しては、感染対策の徹底をお願いして、縮小しながらも実施することができた。

臨床実習は、病院内で実施するため、さらなる工夫が必要であった。実習の方法は診療科で様々であり、担当者から聞き取り調査を行い、安全・安心な実習内容を計画した。しかしながら、3密を避けるためには人数制限を行わざるを得ず、十分な臨床実習ができなかったことは残念であった。加えて、感染拡大期は関連施設での学生実習が不可となり、数か月間はオンライン実習を併用することになった。縫合セットなどを学生に送るなどの対応をした教室もあり、学生の評判も高かった。

医師国家試験：新卒者は116名受験し、110名合格し、合格率は94.8%と全国平均（94.4%）と同程度であった。既卒者は9人受験し5人合格し、新卒と既卒の合格率は92%であった。国立大学では43校中24位であり、昨年（16位）に比べるとやや低いものの例年よりは良い結果であった。最近の取り組みである ①卒業試験問題を新作やオリジナリティが高いものにする、②合格基準も厳しくして学生の理解度を深める等は、奏効している。しかしながら、勉強部屋の使用やメンターによる介入は新型コロナウイルス感染対策のため、かなりの制限があった。勉強部屋での集団学習とメンターの配置、成績下位者への個人指導は有効であり、コロナ禍の中でも可能な限り実施したい。

（2020年度 医学部長：前村浩二、教務委員長：柳原克紀、学生委員長：三浦清徳、入試委員長：池松和哉）

A. 教養教育

自ら学び、考え、主張し、行動する素養の涵養を目指し教養教育改革が進められている。課題となっているテーマのもとに集められた授業科目群の中から興味のあるモジュールを選び、主体的に学習し、そのテーマに関する多面的な見方、考え方を身につける。

B. 専門教育

医学教育の国際化を進めるために、コミュニケーション力を高める科目「Communication Skill in English」を、2016年度から導入している。今後は外国人患者を診療する機会も増えることから、英語でもある程度の診療ができることが求められる。この科目は、賛否両論ある医学的問題についてディスカッションする。英語で自分の意見を述べ議論できることを目標としている。3年前期に開講する基礎医学TBL (Team based leaning) は、①実際の症例から問題点を抽出し、基礎医学全般の知識を使えるものにするために知識の整理を行う。②グループ内で情報を共有しながら協力して学習し、チームワーク医療における個人の役割を理解する。ものであり、学生が得るものも大きい。

3年後期のリサーチセミナー（基礎教室への配属）においては、リサーチマインドを涵養するものである。毎年10-15名程度が海外の大学を選択し、研究に取り組んでいる。5-6年生には、海外で1-2か月のクリニカルクラークシップ（高次臨床実習）をできる機会を設けている。これらの施設数および派遣学生の増加を進めている。2019年度のリサーチセミナー及びクリニカルクラークシップでは、ライデン大学（オランダ）、ビュルツブルク大学（ドイツ）、ゴメリ大学・ベラルーシ大学（ベラルーシ）、アンジェ大学（フランス）、ナント大学（フランス）、トレント大学（イタリア）、ミシガン州立大学（米国）、ハーリム大学校（韓国）、プサン大学校（韓国）、慶尚大学校（韓国）、チュラロンコン大学（タイ）、シンガポール国立大学（シンガポール）に、では、計34名を派遣した。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大のため、2020年度のリサーチセミナーおよびクリニカルクラークシップについては、全ての海外実習を中止することとなった。一刻もはやく収束し、再開できることを祈っている。長崎大学や医学部医学科のKPI (Key Performance Indicator : **重要業績評価指標**) としても、海外での実習は大きなウェイトを占めている。国際的に活躍できる医師を養成できるように、国際化を推進したい。

（文責：医学部医学科 教務委員長 柳原克紀）

表1 令和2年度 医学部医学科教員の教養教育への参画

A. 教養教育授業科目担当の医学部医学科教員

分野	授 業 科 目 名	担 当 教 員
教養ゼミナール科目	初年次セミナー	中道 聖子、泉川 公一、宮崎 泰可、田代 将人、高園 貴弘、田中 健之、藤田 あゆみ、濱崎 景子、青柳 潔、船越 康智、井手口 怜子、北島 百合子、三浦 清徳、北島 道夫、嶋田 貴子、長谷川 ゆり、朝永 千春、原 哲也、福島 真典、橘口 慶一、日高 重和、太田 祐樹、浦松 正、牟田 久美子、山下 鮎子、鳥越 健太、辻 清和、深江 学芸

【学部モジュール】

分野	授 業 科 目 名	担 当 教 員
学部モジュール科目	医科生物学入門	永山 雄二、李 桃生、吉浦 孝一郎、小路 武彦、篠原 一之、由井 克之、村井 清人、辻 幸臣、浦田 芳重
	医学史・原爆医学と長崎	高村 昇、宮崎 泰司、中島 正洋、横田 賢一、宇佐 俊郎
	医学統計学	岩永 正子、三根 真理子、佐藤 俊太郎
	Communication Skill in English	柳原 克紀、田中 邦彦、隈上 麻衣、西田 教行、Todd Saunders

【全学モジュールⅠ科目】

モジュールテーマ名	授 業 科 目 名	担 当 教 員
生体の機能・障がい・回復の科学 テーマ責任者:北岡 隆	耳鼻咽喉領域における感覚・機能の障がいと回復	熊井 良彦、吉田 晴郎、西 秀昭、渡邊 毅
	運動器のしくみと機能障がいと回復	富田 雅人、米倉 暁彦、辻本 律、宮本 俊之
	眼の発生・多様性と障がいからの回復	北岡 隆、大石 明生、上松 聖典、築城 英子
ヒトのからだを探る テーマ責任者:弦本 敏行	形態を科学する	田中 克己、今村 禎伸、檜山 和也、土居 華子
	からだの中の反逆者・がん細胞との闘い	金高 賢悟、江口 晋、高槻 光寿、山之内 孝彰
	Visible Human Body	弦本 敏行、遠藤 大輔、村井 清人、高村 敬子

【全学モジュールⅡ科目】

モジュールテーマ名	授 業 科 目 名	担 当 教 員
健やかに生きる テーマ責任者:小澤 寛樹	映画から学ぶライフサイクルとメンタルヘルス	小澤 寛樹、木下 裕久、松坂 雄亮、森本 芳郎
	発達症(発達障害)の理解と支援	今村 明、岩永 竜一郎、金替 伸治
	ヒトはなぜ病気になるのか？	川上 純、吉浦 孝一郎、佐藤 克也、川尻 真也
生命を多次元で哲学する テーマ責任者:池松 和哉	細胞生命を哲学する	小路 武彦、柴田 恭明、田中 邦彦、林 日出喜
	地域社会に生きる個体生命を哲学する	森 亮一、林 洋子、朴 盛浚、下川 功
	社会生命を哲学する	梅原 敬弘、池松 和哉
コミュニケーションの生物学 テーマ責任者:有賀 純	地域文化と保健医療	前田 隆浩、永田、康浩、松坂 雄亮、山梨 啓友
	脳の成り立ちと働き	有賀 純、中川 慎介、畑山 実、松永 隼人
	脳神経の病気	辻野 彰、白石 裕一、立石 洋平、吉村 俊祐
エピジェネティクスと生命 テーマ責任者:伊藤 敬	エピジェネティクス	伊藤 敬、中川 武弥、米田 光宏
	発がん・がん治療とエピジェネティクス	益谷 美都子、山本 一男、増本 博司
	エピジェネティクスと免疫制御、がん免疫治療	池田 裕明、村岡 大輔、安井 潔

B. 教養教育関連委員会の医学部医学科委員

委 員 会	委 員
教養教育実施専門部会	柳原 克紀
モジュール科目小委員会	弦本 敏行
評価・FD教育改善専門部会	安武 亨

表2 令和2年度 1～6年次授業科目(系)責任者

学年	授 業 科 目	責 任 者
1 年 次	医と社会Ⅰ	安武 亨
	人体構造系Ⅰ	弦本 敏行
	生体分子系	伊藤 敬
	発生・組織系	小路 武彦
	内臓機能・体液系Ⅰ	井上 剛
	プレリサーチセミナー	柳原 克紀
	地域医療ゼミ	前田 隆浩 調 漸
	熱帯医学ゼミ	有吉 紅也
	国際医療ゼミ	高村 昇
	医学ゼミ	柳原 克紀
2 年 次	医学英語Ⅰ	Todd Saunders
	医と社会Ⅱ	安武 亨
	神経・感覚器系	弦本 敏行
	人体構造系Ⅱ	弦本 敏行
	動物性機能系	篠原 一之
	内臓機能・体液系Ⅱ	井上 剛
	分子遺伝系	吉浦 孝一郎
	感染系	西田 教行
	免疫系	由井 克之
	腫瘍系	池田 裕明
	放射線基礎医学	工藤 崇
	プレリサーチセミナー	柳原 克紀
	国際医療英語	Todd Saunders
	国際医療ゼミ	高村 昇
3 年 次	医学ゼミ	柳原 克紀
	医学英語Ⅱ	Todd Saunders
	医と社会Ⅲ	安武 亨
	病理総論系	下川 功
	薬理系	有賀 純
	放射線医学	上谷 雅孝
	基礎医学TBL	永山 雄二
	循環器系	前村 浩二
	血液・リンパ系	宮崎 泰司
	呼吸器系	迎 寛
	腎泌尿器系	酒井 英樹
	感染症系	泉川 公一
	運動系	尾崎 誠
	生殖系	三浦 清徳
	臨床検査医学	柳原 克紀
	内分泌・代謝・栄養系	川上 純
	消化器系	中尾 一彦
	プレリサーチセミナー	柳原 克紀
	リサーチセミナー	池田 裕明
	国際医療英語	Todd Saunders
	医学ゼミ	柳原 克紀
	医学英語Ⅲ	Todd Saunders

学年	授 業 科 目	責 任 者
4 年 次	医と社会Ⅳ	安武 亨
	人体構造系Ⅲ	弦本 敏行
	免疫・アレルギー疾患系	川上 純
	病理各論系Ⅲ	福岡 順也
	精神系	小澤 寛樹
	脳・神経系	辻野 彰
	皮膚系	室田 浩之
	視覚系	北岡 隆
	耳鼻咽喉口腔系	熊井 良彦
	小児系	森内 浩之
	地域医療学	前田 隆浩
	衛生学・分子疫学	岩永 正子
	公衆衛生学	青柳 潔
	外科治療学	江口 晋
	法医学系	池松 和哉
	診断学	前田 隆浩
	臨床疫学・医療情報学	前田 隆浩
	臨床薬理学	佐々木 均
	東洋医学	有賀 純
	総合病理学	中島 正洋
5 年 次	臨床推論PBL	柳原 克紀
	臨床実習	上谷 雅孝
6 年 次	医学ゼミ	柳原 克紀
	アドバンストリサーチセミナー	柳原 克紀
	医学英語Ⅳ	Todd Saunders
	臨床実習	上谷 雅孝
5 年 次	高次臨床実習	上谷 雅孝
	アドバンストリサーチセミナー	柳原 克紀
6 年 次	高次臨床実習	上谷 雅孝
	アドバンストリサーチセミナー	柳原 克紀
6 年 次	臨床総括講義	柳原 克紀

表3 令和2年度 後期「リサーチセミナー」

教 室 名	指 導 教 員	研 究 テ ー マ	受講学生数
肉眼解剖学 (解剖 2)	佐伯和信 高村敬子 岡本圭史 弦本敏行	各種疾患に関する臨床解剖学的研究	2
肉眼解剖学 (解剖 2)	弦本敏行 遠藤大輔	大腿骨形状と力学的ストレス分布との関連-有限要素法を用いた解析	1
肉眼解剖学 (解剖 2)	遠藤大輔 弦本敏行	死亡直後CT像に基づく有限要素法による大腿骨骨折リスクの3次元解析	1
肉眼解剖学 (解剖 2)	村井清人 弦本敏行	タウタンパク質凝集形成効率の解析	1
肉眼解剖学 (解剖 2)	弦本敏行	大腿骨骨幹における皮質骨微細構造の解析	1
組織解剖学 (解剖 3)	柴田恭明 松本 弦 小路武彦	認知症モデルマウスの病態解析と新規治療薬の評価	2
組織解剖学 (解剖 3)	柴田恭明 松本 弦 小路武彦	ミャンマー国肝細胞がんにおけるPygopus の発現解析	1
組織解剖学 (解剖 3)	柴田恭明 松本 弦 小路武彦	In situ PCR プライマー選定方法の検定	1
内臓機能生理学 (生理 1)	井上 剛	神経-免疫系を介した腎臓保護メカニズムに関する研究	1
内臓機能生理学 (生理1)	井上 剛	腎臓線維化メカニズムに関する研究	1
内臓機能生理学 (生理1)	井上 剛	動脈硬化進展メカニズムに関する研究	1
内臓機能生理学 (生理1)	辻 幸臣	致死性不整脈の実験モデルを用いた基礎的研究	1
神経生理学 (生理 2)	青山晋也 篠原一之	光による皮膚体内時計の制御に関する研究	1
神経生理学 (生理 2)	青山晋也 篠原一之	アミノ酸代謝の日内変動と骨格筋機能に関する研究	1
神経生理学 (生理 2)	樽見 航 篠原一之	細胞リズムの数理解析	1
神経生理学 (生理2)	樽見 航 篠原一之	嗅覚刺激によるヒトの性的神経基盤の制御に関する研究	1
神経生理学 (生理2)	中畑泰和 篠原一之	新規概日時計レポーターの開発およびそれを用いた研究	1
神経生理学 (生理2)	中畑泰和 篠原一之	NAD+合成に関与する因子を同定する実験系の確立	1
生化学	中川 武弥 伊藤 敬	MED複合体を標的とした分子標的抗がん剤スクリーニングの確立	1
生化学	中川 武弥 伊藤 敬	MED複合体を標的とした分子標的抗がん剤スクリーニングの確立	1
生化学	米田 光弘 伊藤 敬	MLL複合体を標的とした分子標的抗がん剤スクリーニングの確立	1
生化学	米田 光弘 伊藤 敬	MLL複合体を標的とした分子標的抗がん剤スクリーニングの確立	1

教 室 名	指 導 教 員	研 究 テ ー マ	受講学生数
生化学	林田広美 服部尚子 伊藤 敬	BRGクロマチンリモデリン複合体を標的とした抗がん剤スクリーニングの確立	1
生化学	中川香をり 服部尚子 伊藤 敬	タバコ成分によるアポトーシスのメカニズム	1
薬理学	藤田 和歌子 有賀 純	「オピオイド受容体ヘテロ二量体化」の細胞内制御システムに着目した、鎮痛耐性形成機序の解明	1
薬理学	畑山 実 有賀 純	精神疾患に関わるシナプス膜タンパク質の機能探索	1
薬理学	畑山 実 有賀 純	生後のモノアミン異常が発達に及ぼす影響	1
薬理学	松永 隼人 有賀 純	シナプス膜の分子装置と高次脳機能障害	1
薬理学	有賀 純 藤田和歌子 畑山実 松永隼人	発達障害モデル動物における高次脳機能の変化	1
探索病理学 (病理1)	下川 功	肝臓の代謝や炎症におけるFoxO3の役割	1
探索病理学 (病理1)	森 亮一	皮膚創傷治癒過程の分子メカニズムの解明	1
探索病理学 (病理1)	朴 盛浚	Zinc finger protein 90 (ZFP90)の脂質代謝制御機構の分析	1
病態病理学 (病理2)	福岡 順也	人工知能を用いた病理診断の研究	1
病態病理学 (病理2)	上紙 航/福岡 順也	人工知能の開発研究	1
病態病理学 (病理2)	小笹 睦/福岡 順也	肺病変の臨床病理学的研究	1
病態病理学 (病理2)	立花 由梨/福岡 順也	癌の分子病理学的研究	1
病態病理学 (病理2)	尹 漢勝	病理診断に機械学習を応用するためのラベル作成に関する研究	1
免疫学	井上 信一／由井克之	マラリア原虫感染における宿主T細胞の免疫応答に関する研究	3
公衆衛生学	水上諭・青柳潔	生活習慣病の疫学研究	3
公衆衛生学	有馬和彦	健康に関する遺伝要因と環境要因	3
法医学	池松 和哉 梅原 敬弘 村瀬 壮彦	人工知能を駆使した法医学的診断法の開発	1
法医学	池松 和哉 梅原 敬弘 村瀬 壮彦	凍死の死因究明に資する分子診断マーカーの探索	1
法医学	池松 和哉 梅原 敬弘 村瀬 壮彦	皮膚損傷における受傷時期診断法の研究	1
法医学	池松 和哉 梅原 敬弘 村瀬 壮彦	乳幼児突然死症例に対する分子生物学的検討	2
法医学	池松 和哉 梅原 敬弘 村瀬 壮彦	長期ストレス負荷による生体反応の検索	1

教 室 名	指 導 教 員	研 究 テ ー マ	受講学生数
原研病理	松田勝也	甲状腺結節の病理診断に寄与する分子病理学的研究	1
原研病理	松山睦美	若週齡ラットの放射線誘発甲状腺発癌におけるオートファジーの影響	1
原研病理	七條 和子	シスチン・テアニンの高線量照射における放射線防護効果について	1
原研病理	Muzzazhanova Zhanna/中島正洋	良性甲状腺腫瘍におけるTERT promoter変異の病理学的意義	1
原研病理	赤澤祐子	潰瘍性大腸炎発癌症例におけるDNA損傷応答の研究	1
原研放射	西 弘大	放射性医薬品による生体機能の可視化	2
原研放射	工藤 崇	長崎原爆由来の土壌試料のデータベース構築	1
原研幹細胞 (旧原研生化)	川端 剛	オートファジーによるゲノム安定性の維持機構の解明	2
原研幹細胞 (旧原研生化)	後藤 信治	放射線が細胞小器官に及ぼす影響	2
原研幹細胞 (旧原研生化)	李 桃生	メカノバイオロジーを活かした病態解明	2
原研国際 (旧原研疫学)	平良文亨	生活行動の違いによる個人被ばく線量評価と住居周辺の外部被ばく線量評価	1
原研国際 (旧原研疫学)	平良文亨	地産地消に伴う内部被ばく線量評価	1
原研国際 (旧原研疫学)	折田真紀子・松永妃都美	福島県川内村のキノコ中放射性セシウム濃度	2
原研国際 (旧原研疫学)	折田真紀子・松永妃都美	福島県大熊町住民の放射線健康リスク認知	2
原研遺伝	吉浦 孝一郎	現代人日本人のSNP解析	2
原研遺伝	木下 晃	ゲノム編集で作製したモデルマウスの解析	2
原研遺伝	三嶋 博之	音声認識エンジンを使った言語・構音評価システムの開発	2
原研医療 (旧原研細胞)	鈴木啓司	放射線被ばく組織における組織反応の研究	3
原研医療 (旧原研細胞)	鈴木啓司	放射線被ばくと生活習慣との相互作用の研究	3
原研医療 (旧原研細胞)	鈴木啓司	放射線被ばくによる分子シグネチャーの解析	3
原研医療 (旧原研細胞)	光武 範吏	甲状腺癌の進展に重要な遺伝子	2
原研分子	永山雄二 嶋村美加	甲状腺オンコサイ トーマの腫瘍化原因の解明	2
原研分子	永山雄二 嶋村美加	甲状腺癌におけるオートファジーの標的指向性	1

教室名	指導教員	研究テーマ	受講学生数
原研分子	永山雄二 蔵重智美	マウスにおける放射線誘発性発癌に対する抗酸化剤の効果	3
腫瘍医学	池田 裕明 安井 潔	遺伝子改変細胞を用いたがんに対する新規細胞療法の開発	3
腫瘍医学	池田 裕明 村岡 大輔	腫瘍局所環境に注目した、難治性腫瘍に対する治療法の開発	3
微生物学 (感染分子(細菌))	西田教行	プリオン蛋白の液相分離	1
微生物学 (感染分子(細菌))	中垣岳大	感染早期におけるプリオンの体内動態	1
微生物学 (感染分子(細菌))	中垣岳大	変異 α シヌクレインの細胞毒性の解析	1
微生物学 (感染分子(細菌))	金子美穂	JCウイルス感染過程の定量的モニタリング系の確立	2
分子標的医学研究センター	益谷 美都子 小野寺貴恵	抗がん剤のバイオマーカーの研究	2
分子標的医学研究センター	益谷 美都子 今道祥二	がんのホウ素中性子捕捉療法(BNCT)のバイオマーカーの研究	2
分子標的医学研究センター	大滝大樹	計算機を用いたタンパク質-薬物間の相互作用解析	1
分子標的医学研究センター	水田賢志	抗ウイルス剤の合成に基づく実践的創薬研究	1
分子標的医学研究センター	ゴウチャン プニータ	Molecular epidemiological study of Rotavirus A circulating in Nepal in recent times.	1
先導 放射線生物・防護学分野	山内基弘	放射線被ばくによってできるDNA損傷の修復メカニズムの研究	2
先導 放射線生物・防護学分野	松田尚樹・福田直子 (原研放射)	医療における放射線防護教育のための放射線モニタリングリファレンスの作成	1
先導 放射線生物・防護学分野	松田尚樹・三浦美和	I-131に対する細胞応答性に基づき原発事故後の甲状腺癌のリスクを考えるI	1
熱研 ウイルス学	森田公一 モイメンリン 井上真吾	デング熱の重症化機構	1
熱研 新興感染症学	安田 二郎 阿部 遥	新型コロナウイルスおよびアフリカで分離されたウイルスの分子疫学解析	1
熱研 細菌学	児玉年央 日吉大貴	腸管病原細菌の病原性解析	1
熱研 原虫学	石崎隆弘	ネズミマラリア原虫の誘導性遺伝子ノックアウト法の開発	1
熱研 免疫遺伝	平山 謙二 水上 修作 (免疫病態制御学)	伝承医薬に基づいた新規抗マラリア薬開発研究	1
熱研 生態疫学	金子聰	ケニアにおける乳幼児の健康調査	3
熱研 国際保健学	山本太郎	テロメア疫学 or マラリア疫学	1
熱研 病害動物学	皆川昇	モザンビークに侵入したヒトスジシマカの起源推定	1

海外派遣実習生

派遣プログラム	派遣国名	派遣先	実習学生数	
高次臨床実習	シンガポール	シンガポール国立大学	0	※交流協定による海外派遣
高次臨床実習	ドイツ	ビュルツブルク大学	0	※交流協定による海外派遣
高次臨床実習	韓国	プサン大学校	0	※交流協定による海外派遣
高次臨床実習	韓国	慶尚大学校	0	※交流協定による海外派遣
高次臨床実習	アメリカ	ミシガン州立大学	0	※交流協定による海外派遣
高次臨床実習	タイ	チュラロンコン大学	0	※交流協定による海外派遣
高次臨床実習	フランス	アンジェ大学	0	※交流協定による海外派遣
リサーチセミナー	オランダ	ライデン大学	0	※交流協定による海外派遣
リサーチセミナー	ドイツ	ビュルツブルク大学	0	※交流協定による海外派遣
リサーチセミナー	ベラルーシ	ベラルーシ医科大学・ゴメリ医科大学	0	※交流協定による海外派遣
リサーチセミナー	韓国	プサン大学校	0	※交流協定による海外派遣
リサーチセミナー	イタリア	トレント大学	0	※交流協定による海外派遣

表4 A 令和2年度長崎大学医学部臨床実習協定締結施設

No.	施設名	協定年月日
1	長崎みなとメディカルセンター(旧:長崎市立市民病院)	平成8年5月31日
2	日本赤十字社長崎原爆病院	平成8年5月31日
3	長崎県病院企業団長崎県精神医療センター	平成8年6月1日
4	社会福祉法人長崎市障害福祉センター	平成8年6月1日
5	財団法人長崎県健康事業団(旧:財団法人長崎県総合保健センター)	平成8年6月1日
6	社会医療法人春回会長崎北病院	平成10年5月20日
7	江上耳鼻咽喉科・めまいクリニック(旧:江上耳鼻咽喉科医院)	平成11年5月31日
8	医療法人祥仁会西諫早病院	平成12年6月19日
9	社会医療法人財団白十字会佐世保中央病院	平成12年7月21日
10	長崎市中央保健センター	平成12年11月24日
11	医療法人友愛会介護老人保健施設にしきの里	平成12年11月24日
12	医療法人清潮会介護老人保健施設みどりの里	平成12年11月24日
13	日本海員救済会長崎病院	平成13年5月11日
14	阿南皮膚科医院(→閉院(教室確認))	平成13年5月11日
15	医療法人北辰会久保皮膚科医院(→閉院(教室確認))	平成13年5月11日
16	独立行政法人国立病院機構長崎病院(旧:国立療養所長崎病院)	平成13年5月11日
17	ゆきなりクリニック	平成13年7月10日
18	医療法人 厚生会虹が丘病院	平成13年8月7日
19	医療法人昌生会出口病院	平成14年7月18日
20	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター	平成15年6月12日
21	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター(旧:佐世保市立総合病院)	平成16年8月1日
22	長崎県五島保健所	平成16年8月1日
23	五島市国民健康保険三井楽町診療所	平成16年8月1日
24	五島市国民健康保険玉之浦診療所	平成16年8月1日
25	岐宿町岐宿診療所	平成16年8月1日
26	山内診療所	平成16年8月1日
27	長崎県五島中央病院	平成16年8月1日
28	長崎県富江病院	平成16年8月1日
29	長崎県五島中央病院附属診療所 奈留医療センター(旧:長崎県奈留病院)	平成16年8月1日
30	五島市健康政策課	平成16年9月1日
31	社会福祉法人五島市社会福祉協議会	平成16年9月1日
32	長崎県上五島病院	平成17年9月1日
33	小値賀町国民健康保険診療所	平成17年9月1日
34	長崎県上五島保健所(旧:離島医療圏組合上五島病院)	平成17年9月1日
35	新上五島町健康保険課(旧:健康推進課)	平成17年9月1日
36	社会福祉法人新上五島町社会福祉協議会	平成17年9月1日
37	長崎県対馬いづはら病院	平成19年7月2日
38	長崎県中対馬病院(平成27年5月17日～長崎県対馬病院に統合)	平成19年7月2日
39	長崎県上対馬病院	平成19年7月2日
40	豊玉診療所	平成19年7月2日
41	長崎県対馬保健所	平成19年7月2日
42	社会福祉法人幸生会特別養護老人ホームわたづみ	平成19年7月2日
43	社団法人全国社会保険協会連合会健康保険諫早総合病院	平成19年7月2日
44	医療法人萌悠会 耳鼻咽喉科 神田E・N・T医院	平成19年7月2日
45	重症心身障害児施設みさかえの園むつみの家	平成19年7月2日
46	東京都監察医務院	平成20年5月14日

No.	施設名	協定年月日
47	宮崎内科医院	平成20年5月14日
48	医療法人衆和会 長崎腎病院（平成23年7月 桜町クリニックと統合）	平成20年5月14日
49	宗教法人聖フランシスコ病院会聖フランシスコ病院	平成20年5月14日
50	医療法人光善会 長崎百合野病院	平成20年5月14日
51	すがさきクリニック	平成20年5月14日
52	みちクリニック	平成20年5月14日
53	医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院	平成20年5月14日
54	三菱重工業㈱長崎造船所病院(H28.4重工記念長崎病院に名称変更)	平成20年5月14日
55	医療法人栄寿会真珠園療養所	平成20年5月14日
56	三島眼科医院	平成20年5月28日
57	思案橋ツダ眼科	平成20年5月28日
58	和仁会病院	平成21年4月8日
59	地方独立行政法人 北松中央病院	平成21年4月8日
60	ホーム・ホスピス中尾クリニック	平成21年4月22日
61	県央地域広域市町村圏組合	平成21年9月18日
62	特定医療法人三校会 宮崎病院	平成22年4月14日
63	特別医療法人春回会 井上病院	平成22年4月14日
64	山根内科胃腸科医院	平成22年4月14日
65	医療法人谷川放射線科胃腸科医院	平成22年4月14日
66	医療法人社団健昌会 新里クリニック浦上(旧:医療法人社団健昌会 新里ネフロクリニック)	平成22年4月14日
67	社会福祉法人恩賜財団 済生会支部 済生会長崎病院	平成22年4月14日
68	医療法人清潮会 三和中央病院	平成22年4月14日
69	東京慈恵医科大学	平成22年4月14日
70	長崎県立こども医療福祉センター	平成26年4月1日
71	独立行政法人労働者健康福祉機構長崎労災病院	平成23年5月1日
72	長崎県島原病院	平成23年5月1日
73	医療法人みどりが丘クリニック	平成25年6月5日
74	聖マリア病院	平成25年6月5日
75	長崎市消防局 中央署、北署、飽の浦出張所、松が枝出張所	平成20年5月14日
76	長崎原爆諫早病院	平成26年4月1日
77	きのしたこどもクリニック	平成26年4月1日
78	医療法人衆和会桜町クリニック（長崎腎病院に統合）	平成20年3月31日
79	国家公務員共済組合連合会 佐世保共済病院	平成27年4月1日
80	長崎宝在宅医療クリニック	平成27年4月1日
81	特定医療法人 玄州会	平成27年4月1日
82	長崎県壱岐振興局保健部(壱岐保健所)	平成27年4月1日
83	壱岐市役所 保健環境部 健康保険課	平成27年4月1日
84	井上内科小児科医院	平成27年4月1日
85	社会福祉法人 さゆり会 特別養護老人ホーム 只狩荘	平成27年4月1日
86	社会福祉法人 秀峯会 介護老人保健施設 つくしの里	平成27年4月1日
87	長崎県壱岐市民病院 ※H27. 4. 1より「長崎県壱岐病院」に改称	平成27年4月1日
88	長崎市内地域包括支援センター(20箇所)	平成28年1月8日
89	医療法人共生会 訪問看護ステーション ゆうあい	平成28年1月1日
90	セントケア訪問看護ステーション 長崎みなみ	平成28年1月1日
91	訪問看護ステーションそよかぜ	平成28年1月1日
92	特定医療法人昭和会 昭和会訪問看護ステーション	平成28年1月1日
93	医療法人社団春秋会 訪問看護ステーション太陽	平成28年1月1日
94	長崎南訪問看護ステーション“21”	平成28年1月1日

No.	施設名	協定年月日
95	医療法人友愛会 訪問看護ステーション あんこう	平成28年1月1日
96	長崎市医師会保健福祉センター 訪問看護事業所	平成28年1月1日
97	長崎県看護協会 訪問看護ステーションYOU	平成28年1月1日
98	宗教法人聖フランシスコ病院会 フランシスコ訪問看護ステーション	平成28年1月1日
99	有限会社 訪問看護ステーション かいごの花みずき	平成28年1月1日
100	合同会社訪問看護ステーションさくら	平成28年1月1日
101	合同会社 訪問看護ステーション あさひ	平成28年1月1日
102	社会福祉法人平成会 訪問看護ステーション 横尾	平成28年1月1日
103	医療法人厚生会訪問看護ステーション すみ香	平成28年1月1日
104	合同会社 訪問看護ステーション鳴見	平成28年1月1日
105	社会医療法人春回会 訪問看護ステーション“ひまわり”	平成28年1月1日
106	医療法人緑風会 訪問看護ステーションあじさい	平成28年1月1日
107	医療法人光善会 訪問看護ステーション「コスモス」	平成28年1月1日
108	医療法人常葉会 訪問看護ステーションながよ	平成28年1月1日
109	訪問看護ステーション ほっと	平成28年1月1日
110	訪問看護ステーション きんかい	平成28年1月1日
111	独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター	平成28年4月1日
112	社会医療法人健友会 上戸町病院	平成29年1月1日
113	市立大村市民病院	平成29年1月1日
114	訪問看護ステーション ゆめライフ	平成29年1月1日
115	訪問看護在宅療養ステーション 桃花竿浦	平成29年1月1日
116	リハビリ訪問看護ステーション クローバー	平成29年1月1日
117	訪問看護ステーション あぶんぜ	平成29年4月1日
118	株式会社 福江薬局	平成29年4月1日
119	長崎県対馬病院	平成29年4月1日
120	いづはら診療所	平成29年4月1日
121	NPO法人 地域活動支援センター きらり	平成29年4月1日
122	対馬市社会福祉協議会	平成29年4月1日
123	医療法人 あそう眼科	平成29年4月1日
124	宮崎耳鼻咽喉科医院	平成29年4月1日
125	吉見耳鼻咽喉科	平成29年4月1日
126	重野耳鼻咽喉科医院・めまい難聴クリニック	平成29年4月1日
127	共立耳鼻咽喉科	平成29年4月1日
128	浜崎耳鼻咽喉科クリニック	平成29年4月1日
129	わたなべ耳鼻咽喉科医院 ※大村市	平成29年4月1日
130	五島市	平成29年4月1日
131	有限会社 あい調剤薬局	平成29年4月1日
132	医療法人社団杏風会 耳鼻咽喉科原口クリニック	平成29年10月1日
133	医療法人 たしろ耳鼻咽喉科	平成29年10月1日
134	高村耳鼻咽喉科・アレルギー科	平成29年10月1日
135	宗耳鼻咽喉科クリニック	平成29年10月1日
136	小島耳鼻咽喉科クリニック	平成29年11月1日
137	佐々町国民健康保険診療所	平成29年12月1日
138	佐々町役場	平成29年12月1日
139	佐世保こども・女性・障害者支援センター	平成29年12月1日
140	わたなべ耳鼻咽喉科クリニック ※長崎市	平成30年3月1日
141	徳島大学医学部	平成30年4月1日
142	かせ耳鼻咽喉科	平成30年6月1日

No.	施設名	協定年月日
143	長崎リハビリテーション病院	平成30年6月1日
144	耀光リハビリテーション病院	平成30年6月1日
145	東京都立松沢病院	平成30年11月1日
146	いけだ内科	令和1年7月1日
147	海江田耳鼻咽喉科	令和1年7月1日